



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月30日

上場取引所 東

上場会社名 神戸電鉄株式会社

コード番号 9046 URL <http://www.shintetsu.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 杉山 健博

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部 部長

(氏名) 前田 正明

TEL 078-576-8671

四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	11,031	△2.6	1,011	10.5	511	45.6	361	14.6
25年3月期第2四半期	11,331	△3.8	915	11.9	351	74.6	315	92.1

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 456百万円 (75.4%) 25年3月期第2四半期 260百万円 (138.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	4.49	—
25年3月期第2四半期	3.92	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第2四半期	97,183	11,813	12.2	146.78
25年3月期	98,966	11,360	11.5	141.13

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 11,813百万円 25年3月期 11,360百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,960	△1.0	1,561	△7.4	603	△5.8	512	△11.4	6.36

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	80,615,668 株	25年3月期	80,615,668 株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	129,079 株	25年3月期	119,053 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	80,491,655 株	25年3月期2Q	80,505,556 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
4. 運輸成績	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策や日本銀行の金融政策による効果が見られ円安・株高が進み、企業収益の改善や個人消費の持ち直しの動きが見られるものの、電気料金の値上げや原材料価格の上昇など先行き不透明な状況で推移いたしました。このような厳しい経営環境のなか、当社グループにおきましては、平成25年度から28年度までの新中期経営計画「グループビジョン2016」に基づき、各部門において増収に力を注ぐとともに経費の削減に努めてまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の業績は次のとおりとなりました。

すなわち、営業収益は11,031百万円となり前年同期に比べ300百万円（2.6%）減少となりましたが、経費の削減などにより営業利益は1,011百万円となり前年同期に比べ96百万円（10.5%）増加、経常利益は511百万円となり前年同期に比べ160百万円（45.6%）増加、特別損益などを加減した四半期純利益は361百万円となり前年同期に比べ46百万円（14.6%）増加いたしました。

当第2四半期連結累計期間のセグメント別の概況につきましては、次のとおりであります。

(運輸業)

鉄道事業におきましては、本年5月28日に巻き起こした有馬口駅構内における列車脱線事故の原因について、現在運輸安全委員会において調査中ではありますが、当社においても外部の専門機関の協力を得て、独自に事故原因の究明を進めております。

また、引き続き「安全の絶対確保」を図るため、安全管理体制のさらなる強化に努めるとともに、重レール化、PCまくらぎ化、トンネル・橋梁補強、法面防災など安全性向上のための工事を進めております。なお、これらの安全関連投資の一部につきましては、「鉄道軌道安全輸送設備等整備事業」の補助を活用しております。

増収策といたしましては、沿線自治体や各種団体との連携を強化して企画ハイキングなどを開催し、多数のお客様にご参加いただきました。また、企画乗車券におきましては、「有馬温泉 太閤の湯クーポン」、「有馬・六甲周遊1dayパス」に加え、有馬温泉観光協会が主催する「有馬温泉湯あがりバル」とのタイアップ商品として新たに「有馬バルきっぷ」を発売するなど、観光地である有馬温泉をはじめ沿線内への旅客誘致に努めるとともに、「OSAKA海遊きっぷ」や「いい古都チケット」など、沿線外へのお出かけを目的とした商品の販売にも努めました。

ご利用者の減少が続く粟生線におきましては、粟生線地域公共交通総合連携計画に基づき、国や沿線自治体とともに粟生線活性化協議会における各重点施策に鋭意取り組んでおります。具体的には、「粟生線通勤 Come Back 補助金」による定期利用者の拡大、「粟生線サポーターズくらぶ」の会員募集、本年9月から開始した「粟生線乗ろうDAY!プログラム」などを推し進めており、それらを通じ地域の皆様と一体となって公共交通の利用意識の向上や粟生線の利用促進に取り組み、その一方で運行経費の削減を図るため車両の短編成化を実施いたしました。

このほか、駅照明・信号灯などのLED化やパーク・アンド・ライド駐車場の利用促進に努め、環境にやさしい鉄道をアピールいたしました。

バス事業におきましては、本年5月より新たにバス路線の運行を受託したほか、貸切バス事業および運行管理請負業においてスクールバスを増便するなど、引き続き積極的な営業活動に努めました。

タクシー業におきましては、効率的な配車や稼働率の向上に努めるとともに、大阪地区においてはハイブリッド車の導入による経費の削減に努めました。

これらの結果、バス事業、タクシー業をあわせた当第2四半期連結累計期間の運輸業の営業収益は6,401百万円となり、就業・就学人口の減少などの影響により前年同期に比べ22百万円（0.3%）の減少となりましたが、営業利益は581百万円となり、輸送の効率化および経費の削減などにより前年同期に比べ121百万円（26.3%）の増加となりました。

(流通業)

神鉄食彩館（食品スーパー）におきましては、昨年9月に導入しましたお買い物ポイントサービスにより顧客の囲い込みを図るとともに、商品構成の見直しなどにより既存店の収益強化に努めました。また、北鈴蘭台駅前広場に洋菓子店を新たに誘致するとともに、駅売店においては、新開地売店のリニューアルを行い品揃えの充実を図りました。

しかしながら、低価格志向の影響や競合の激化などにより、当第2四半期連結累計期間の流通業の営業収益は2,993百万円となり前年同期に比べ210百万円（6.6%）減少し、営業利益は84百万円となり前年同期に比べ18百万円（17.6%）の減少となりました。

なお、本年11月に神戸市須磨区において神鉄食彩館の新規出店を予定いたしております。

(不動産業)

土地建物販売業におきましては、兵庫県尼崎市および神戸市長田区の戸建用地の販売に努めました結果、土地分譲では291.14平方メートルを販売いたしました。

土地建物賃貸業におきましては、賃貸ビルおよび賃貸土地のテナント誘致に努めるとともに、駐車場経営では、時間貸駐車場への転換、月極駐車場の利用率向上などに努めました。

また、本年4月より運営管理業務の受託を開始した「中突堤中央ターミナル」（神戸市中央区）では、指定管理者として円滑な運営に努めました。このほか、6月より見津車庫の構内用地（神戸市西区）において太陽光発電事業を開始いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の不動産業の営業収益は870百万円となり、土地分譲区画数の減少により前年同期に比べ40百万円（4.4%）の減少となりましたが、営業利益は341百万円となり、経費の削減などにより前年同期に比べ12百万円（3.6%）の増加となりました。

(その他)

健康・保育事業におきましては、本年4月より「谷上保育園」（神戸市北区）の分園を開設するとともに、兵庫県小野市では従来の学童保育に加えて、新たに障がい児学童保育を開始するなど園児数の増加に努めました。また、「岡場保育園」（神戸市北区）の運営形態を変更し、新たに保育ママとして営業を開始いたしました。

さらに、神戸市から運営管理業務を受託しております「神戸市立北神戸田園スポーツ公園」では、新たにドッグランを設置するとともに、魅力的なイベントなどの開催によりご好評をいただいております。

また、建設業におきましては、当社グループ外からの受注拡大に努めました。

しかしながら、介護事業における利用者の減少などにより、当第2四半期連結累計期間のその他の営業収益は1,231百万円となり前年同期に比べ12百万円（1.0%）減少し、営業利益は18百万円となり前年同期に比べ16百万円（47.1%）の減少となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、有形固定資産が減少したこと等により前連結会計年度末に比べ1,783百万円減少の97,183百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の負債は、借入金の返済及び買掛金の減少等により前連結会計年度末に比べ2,237百万円減少の85,369百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、当四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したこと等により前連結会計年度末に比べ453百万円増加の11,813百万円となり、自己資本比率は12.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成25年5月14日発表の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年 3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年 9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,549	1,173
受取手形及び売掛金	934	936
販売土地及び建物	1,348	1,286
商品	92	94
貯蔵品	451	487
未成工事支出金	16	6
その他	971	436
流動資産合計	5,366	4,423
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	48,500	47,757
機械装置及び運搬具（純額）	5,996	5,816
土地	34,445	34,445
建設仮勘定	1,002	1,160
その他（純額）	514	473
有形固定資産合計	90,459	89,652
無形固定資産		
のれん	37	34
その他	694	638
無形固定資産合計	732	672
投資その他の資産		
投資有価証券	910	1,023
その他	1,498	1,410
投資その他の資産合計	2,408	2,434
固定資産合計	93,600	92,760
資産合計	98,966	97,183
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,666	922
短期借入金	28,432	26,966
未払法人税等	61	61
賞与引当金	41	48
その他	2,748	2,659
流動負債合計	32,949	30,658
固定負債		
長期借入金	46,120	46,374
退職給付引当金	1,636	1,564
その他	6,899	6,772
固定負債合計	54,656	54,711
負債合計	87,606	85,369

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,710	11,710
利益剰余金	△1,425	△1,064
自己株式	△32	△35
株主資本合計	10,252	10,610
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	135	224
繰延ヘッジ損益	△99	△94
土地再評価差額金	1,072	1,072
その他の包括利益累計額合計	1,108	1,202
純資産合計	11,360	11,813
負債純資産合計	98,966	97,183

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
営業収益	11,331	11,031
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	9,157	8,788
販売費及び一般管理費	1,257	1,231
営業費合計	10,415	10,019
営業利益	915	1,011
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	14	14
受取保険料	15	—
雑収入	30	37
営業外収益合計	60	52
営業外費用		
支払利息	603	535
雑支出	21	17
営業外費用合計	625	552
経常利益	351	511
特別利益		
工事負担金等受入額	29	1
特別利益合計	29	1
特別損失		
工事負担金等圧縮額	29	1
投資有価証券評価損	2	—
鉄道事故復旧費	—	83
その他	—	17
特別損失合計	32	101
税金等調整前四半期純利益	348	410
法人税、住民税及び事業税	29	45
法人税等調整額	3	3
法人税等合計	32	49
少数株主損益調整前四半期純利益	315	361
四半期純利益	315	361

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	315	361
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△48	89
繰延ヘッジ損益	△6	5
その他の包括利益合計	△54	94
四半期包括利益	260	456
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	260	456
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

[報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報]

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	運輸業	流通業	不動産業	計				
営業収益								
(1) 外部顧客への営業収益	6,414	3,199	869	10,482	848	11,331	—	11,331
(2) セグメント間の内部営業収益 又は振替高	8	4	41	54	394	449	(449)	—
計	6,423	3,203	910	10,537	1,243	11,780	(449)	11,331
セグメント利益	460	102	329	892	34	926	(11)	915

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、介護事業、健康・保育事業及び建設業他を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△11百万円は、主にセグメント間取引であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	運輸業	流通業	不動産業	計				
営業収益								
(1) 外部顧客への営業収益	6,393	2,988	828	10,209	821	11,031	—	11,031
(2) セグメント間の内部営業収益 又は振替高	8	5	42	56	409	466	(466)	—
計	6,401	2,993	870	10,266	1,231	11,497	(466)	11,031
セグメント利益	581	84	341	1,007	18	1,025	(14)	1,011

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、介護事業、健康・保育事業及び建設業他を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△14百万円は、主にセグメント間取引であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 運輸成績

(1) 輸送人員

		当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	増減率
第一種		千人	千人	%
	定期外	7,321	7,408	△1.2
	定期	13,959	14,017	△0.4
	計	21,280	21,425	△0.7
第二種				
	定期外	2,849	2,751	3.6
	定期	5,585	5,540	0.8
	計	8,434	8,292	1.7
合計				
	定期外	10,170	10,159	0.1
	定期	19,544	19,558	△0.1
	計	29,715	29,717	△0.0

(2) 旅客収入

		当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	増減率
第一種		千円	千円	%
	定期外	2,284,425	2,313,673	△1.3
	定期	2,324,990	2,336,821	△0.5
	計	4,609,415	4,650,494	△0.9
第二種				
	定期外	83,972	81,159	3.5
	定期	94,143	93,424	0.8
	計	178,115	174,583	2.0
合計				
	定期外	2,368,397	2,394,832	△1.1
	定期	2,419,133	2,430,245	△0.5
	計	4,787,531	4,825,078	△0.8

(注) 輸送人員は千人未満を、旅客収入は千円未満をそれぞれ切り捨てて表示しております。